

かぬま フラッシュ

夜空にとどろく、ぶっつけ － 口粟野神社秋季例大祭 －



2年に1度、町内にある7台の彫刻屋台が繰り出す口粟野神社秋季例大祭が、10月1・2日の両日、盛大に行われました。

初日は各町内をそれぞれの屋台が、軽快なお囃子のリズムに乗って引き回し。2日の朝は一番町の叶桑沢を先頭に、口粟野神社へ屋台を繰り込み、奉納しました。また、場所を移して行われた子どもたちによるお囃子の競演「ぶっつけ」では、日ごろの練習の成果が披露されました。

夜は、提灯に明かりを灯した屋台が消防粟野分署前の広場に集結し、「ぶっつけ」や威勢のいい掛け声で、祭りは最高潮に達しました。

いい汗かいて、実りの秋を実感！ － 農業学習体験で、落花生・さつま芋収穫 －

10月16日、酒野谷の鹿沼市農業公社では、収穫体験が行われました。

秋晴れの下、集まった親子は、公社職員の指導を受けながら、慣れない手つきで、収穫作業を開始。今回は、落花生とさつま芋の収穫です。

日ごろ食べているピーナッツが実る様子を見るのは、みんな初めて。しっかり腰を入れて力を入れないと、引き抜けません。作業が終わるころには、汗をたっぷりかいていました。

体験終了後は、新米のおにぎりや豚汁が振舞われ、実りの秋を満喫できるひとときでした。





30周年と被災地支援

－ ウェルフェア&福祉と人権のつどい －

10月23日、「ウェルフェア in かぬま30周年 2011 & 福祉と人権のつどい」が市総合福祉センターなどで行われました。

演芸大会やますのつかみどり、被災地支援ボランティア写真展のほか、開会前には30周年を記念した人権啓発パレードも行われ、多くの来場者でにぎわいました。

今年は、社会福祉協議会が岩手県、宮城県や福島県の被災地応援グッズを販売し、日帰りボランティアに続く被災地支援が行われました。

芭蕉像と一緒に写真を撮ろう

－ チェーンソーカービングで芭蕉像を制作 －

10月29日、まちの駅“新・鹿沼宿”で、チェーンソーアーティスト 小林哲二さんによるチェーンソーカービングの実演が行われました。この日は、奥の細道で、松尾芭蕉が訪れたことにちなみ、芭蕉と曾良の像を制作。

チェーンソーだけで細やかな表情まで表現する小林さんの作品に感嘆の声が上がります。さっそく記念撮影の列ができていました。

11月中に完成させ、“新・鹿沼宿”に飾られる予定です。



加蘇の秋を満喫

－ 加蘇コミュニティまつり －

10月30日、第5回加蘇コミュニティまつりが「かぬま手づくりの里 そば処久我」で行われました。

地元子どもたちによる体操や和太鼓の演奏、一輪車走行が行われたほか、スウィングハードオーケストラの演奏やさつきドリーマーズの演技なども行われました。

また、消防車やパトカーが展示され、子どもたちが次々と乗車を体験しました。

新そばやつきたて餅などが販売されたほか、中学生によるお茶の野点もあり、多くの来場者が目と耳と胃袋で秋を楽しみました。